

# 非GMコーン安定確保

「A全農グループは、飼料向け非遺伝子組み換え(非GM)トウモロコシを安定的に確保するため、米国で穀物農家の経営支援を強化する。中西部の穀倉地帯を中心にスタック50人を配置。2016年産からの集荷に備え、農家に合わせて経営指導・助言する。非GM原料の飼料は日本の生協を中心に進む。優良農家を囲い込み、穀物メジャナなどの競争で有利に立ち狙いがある。(糸和知克)

# 米国農家“囲い込み”

日本農業新聞  
2016. 2/2

うち飼料向けは15万t。日本に輸入される飼料向非GMトウモロコシの6割を全農グループが扱っている。

米国では近年、消費者の健康志向の高まりから、非GMトウモロコシ

の需要が高まり、穀物集荷業者間の競争が激化している。全農グループは

引き続き、現地の種子会社との義務提携による非

GM種子の安定確保など

の戦略をとる。

全農グループが調達した2万6000tの非GMトウモロコシで育てた

畜産物を扱う生活クラブ連合会(東京都新宿区は

非GMの飼料で育てた畜産物を求める消費者の

声は強い」と期待する。

A全農とC B社は生協など提携先に申し

夏までにプログラムの説明をしていく予定だ。



生産農家からの信頼を高めて非GMトウモロコシの安定確保につなげるCGB社の社員(米国オハイオ州で)

# 全農グループで飼料需要増で指導 手厚く

「A全農グループは「取引農家のMTトウモロコシの安定調達の年間取扱量は50万t。

国産非GMトウモロコシへの信頼を高めていく」と説明する。全農グループの米

産を強め、農家からの信頼につながる。出向く態

度で非GMの飼料で育てた畜産物を求める消費者の

声は強い」と期待する。

A全農とC B社は生協など提携先に申し

夏までにプログラムの説明をしていく予定だ。

米国ルイジアナ州にある全農の海外関連会社西部を中心に半徑80〜100キロごとに配置。1人で穀物を集荷するCGB社が主体となって進め、穀物対策の新しいプログラムの一環。5年スパンで5年間のプログラムを実施。5年間のプログラムの一部は出荷以上の穀物取引経験を保持している。約30人を担当する。条件を備えた約40人を

「A全農グループは、農家を再選定し、非GMトウモロコシの作付けを

専門知識を持つ約10人を勤める。対象農家に作物の導入や作物保険などで

メジャナと協力し、生

「A全農グループは、農家を再選定し、非GMトウモロコシの作付けを専門知識を持つ約10人を勤める。対象農家に作物の導入や作物保険などでメジャナと協力し、生

「A全農グループは、農家を再選定し、非GMトウモロコシの作付けを専門知識を持つ約10人を勤める。対象農家に作物の導入や作物保険などでメジャナと協力し、生

「A全農グループは、農家を再選定し、非GMトウモロコシの作付けを専門知識を持つ約10人を勤める。対象農家に作物の導入や作物保険などでメジャナと協力し、生